

科目名		解剖生理学										
科目名(英)												
単位数		1		時間数		30時間		担当者		佐藤 敦子		
実施年度		2020年度		実施時期		前期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年		言語聴覚学科(昼夜間) 1年										
授業概要		言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる解剖生理学に関する知識・技能・態度を習得する。										
授業形式		講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)		言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
			○				人体の発生に関する基本的概念が説明できる。					
			○				人体の構造と機能に関する基本的概念が説明できる。(細胞と組織・情報伝達・各器官系)					
			○				運動・感覚機能、呼吸、循環に関する基本的概念が説明できる。					
			○				睡眠と脳波、消化と吸収、体液調整と尿排泄に関する基本的概念が説明できる。					
			○				内分泌、生殖器に関する基本的概念が説明できる。					
テキスト・教材 参考図書		教科書:言語聴覚士のための解剖・生理学 医歯薬出版株式会社 小林靖										
授業計画		回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
		1	解剖学・生理学の概要					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		2	細胞と組織					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		3	血液と免疫					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		4	骨と関節					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		5	人体の発生					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		6	中枢神経と末梢神経					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		7	神経の伝導路					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		8	循環					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		9	呼吸					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		10	体液調節と尿排泄					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		11	消化と吸収					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		12	内分泌・生殖機能					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		13	筋系					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		14	感覚機能					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
		15	睡眠と脳波					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)				
評価方法		(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
		定期試験(筆記)		○				70%				
		小テスト		○				30%				
履修上の注意												

科目名	病理学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	15時間		担当者	自見 至郎
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	医師として病院勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部1年						
授業概要	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになることを最終目標とする。細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
	○	○				様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
	○	○				細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書：医学書院 系統看護学講座 病理学(疾病の成り立ちと回復の促進1)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	細胞・組織・器官・病理学概論(病因と組織変化)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	内因と外因・病気の分類・先天異常、遺伝子・染色体異常				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	代謝障害と細胞および組織変化(変性と壊死)・脂質、タンパク質代謝障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	タンパク質代謝における肝臓と腎臓の役割・ビリルビン代謝障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	循環障害(充血、うつ血、貧血、虚血・血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	炎症、免疫、アレルギー				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	免疫不全、移植				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	腫瘍 まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	基礎医学講座Ⅰ							
科目名(英)								
単位数	1		時間数	15時間		担当者	星子 隆裕	
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年生							
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる人体のしくみ・ことばの成り立ちに関する知識を修得する。							
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				言語聴覚士の資格に求められる基礎的知識の水準を意識できる。		
	○	○				小項目分類ごとの過去問題から正しい答えを選択できる。		
	○	○				小項目分類ごとの過去問題を解説できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書：大森孝一ほか「言語聴覚士テキスト第3版」医歯薬出版株式会社、2018 参考図書：国家試験過去問題集							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	医学総論				事前に言語聴覚士テキストの該当部分を読み、わからないところをチェックしておく(1時間)		
	2	解剖生理学				事前に言語聴覚士テキストの該当部分を読み、わからないところをチェックしておく(1時間)		
	3	病理学				事前に言語聴覚士テキストの該当部分を読み、わからないところをチェックしておく(1時間)		
	4	臨床歯科医学・口腔外科学				事前に言語聴覚士テキストの該当部分を読み、わからないところをチェックしておく(1時間)		
	5	精神医学				事前に言語聴覚士テキストの該当部分を読み、わからないところをチェックしておく(1時間)		
	6	生涯発達心理学				事前に言語聴覚士テキストの該当部分を読み、わからないところをチェックしておく(1時間)		
	7	音声学				事前に言語聴覚士テキストの該当部分を読み、わからないところをチェックしておく(1時間)		
	8	定期試験と解説				定期試験の振り返り学習をすること。(30分)		
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	1) 定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○	○				100%
	小テスト							
	宿題・レポート							
	発表・作品							
履修上の注意								

科目名	内科学系(内科学・小児科学)									
科目名(英)										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	伊佐勝典			
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	病院にて医師として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科(昼夜間) 1年									
授業概要	基本的な医学知識を基に、内科疾患の基本的病型や病態、症状を知る。また各器官の代表的な疾患について理解し、臨床でのリスク管理などについて理解できる。									
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○				基本的内科疾患の病型・病態・症状について理解できる。				
		○				各器官の代表的な病型・病態・症状について理解できる。				
		○				言語聴覚士として触れる患者さまのリスク管理について理解できる。				
		○				小児疾患について基本的な考え方を説明することができる。				
		○				小児の身体的特徴と働きについて理解するとともに、疾患の特徴を説明できる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書:コメディカルのための専門基礎分野テキスト小児科学、中外医学社									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	内科学総論					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	2	循環器の構造と機能、代表的疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	3	腎臓・泌尿器の構造と機能、代表的疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	4	消化器の構造と機能、代表的疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	5	肝・胆・膵臓の構造と機能、代表的疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	6	内分泌疾患・感染症・寄生虫疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	7	自己免疫疾患・膠原病					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	8	血液疾患・中毒性疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	9	小児科学概論					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	10	新生児・未熟児疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	11	先天異常と遺伝病					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	12	心身症・神経症・重症心身障碍児					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	13	小児神経・筋・骨系疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	14	小児循環器・呼吸器系疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	15	小児その他の疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)		○				70%			
	小テスト		○				30%			
履修上の注意										

科目名	精神医学系(精神医学・老年医学)									
科目名(英)										
単位数	1			時間数	15時間		担当者	諸江 健二		
実施年度	2020年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目	精神科クリニックにて医師として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年									
授業概要	精神医学の一般の知識、個々の疾患の精神病理、臨床像、治療について、医療従事者として最低学ばねばならない事柄を身につける。									
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				精神疾患の分類と機能評価について概説できる。				
	○	○				三大精神病を概説できる。				
	○	○				発達障害について概説できる。				
	○	○				診断基準について概説できる。				
	○	○				器質性精神障害について概説できる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書:奈良 勲／鎌倉 矩子. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野精神医学. 医学書院、 参考文献:加藤 正明. 精神科ポケット辞典. 弘文堂									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	精神疾患の分類と精神機能の評価					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。			
	2	統合失調症					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。			
	3	気分障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。			
	4	心因性疾患(神経症・心因反応、心身反応を含む)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。			
	5	生理的、行動の障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。			
	6	器質性精神障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。			
	7	発達障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。			
	8	操作的診断					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○	○				100%			
履修上の注意										

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	15時間		担当者	和田 尚久
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	歯科医として病院勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部1年						
授業概要	歯科疾患や口腔疾患の病態を理解し、口腔機能障害に対する歯科の治療法を学び、歯科医師と言語聴覚士との協働・連携および多職種におけるチーム医療について学ぶ。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				歯科医学の概要について説明できる。	
	○	○				各歯科疾患の発現機序について理解し、症状について説明できる。	
	○	○				口腔ケアの技法について理解し説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士のための基礎知識「臨床歯科医学・口腔外科学」(医学書院)言語聴覚士に必要な歯科の知識(インテルナ出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	歯科医学概論 歯科医学の歴史と重要性				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	2	歯・歯周の疾患				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	3	う蝕および歯髄炎と根尖性歯周炎				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	4	歯質および歯の欠損と不正咬合				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	5	口腔・顎・顔面の異常と外傷				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	6	口腔・顎の炎症と嚢胞				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	7	神経疾患と中枢性疾患および加齢による口腔機能障害				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	8	歯科口腔外科の治療法および口腔ケア				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	神経系医学						
科目名(英)	Nerve System Medicine						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	三田 智巳
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	病院にて言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	中枢神経系のしくみの基礎を理解しアウトプットできる。障害の基礎を理解しアウトプットできる。国家試験の問題が解けるようになる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		国家試験問題を解くことができる。	
	○					神経系の構造を理解できる。	
	○					神経系の機能を理解できる。	
	○	○		○		学んだ内容を班ごとにプレゼンテーションできる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:服部 光男. 全部見える 脳・神経疾患 成美堂出版 参考文献:医療情報科学研究所. 病気がみえる〈vol.7〉脳・神経 メディックメディア						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業説明、シラバス提示、神経系全体像、大脳の構造				授業の復習を30分実施。	
	2	大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、間脳、脳幹、小脳				Classiによる10分間の予習。小テストを30分間予習。	
	3	脳動脈系、脳室系、脳脊髄液の循環、運動と感覚				Classiによる10分間の予習。小テストを30分間予習。	
	4	脳神経 (ⅠからⅤ)				Classiによる10分間の予習。小テストを30分間予習。	
	5	脳神経 (ⅦからⅫ)				Classiによる10分間の予習。小テストを30分間予習。	
	6	発表準備				授業の復習を30分実施。	
	7	発表				授業の復習を30分実施。	
	8	意識障害				Classiによる30分間の予習。	
	9	不随意運動、感覚機能、小脳、歩行障害、自律神経				授業の復習を30分実施。	
	10	脳・神経に関わる検査				Classiによる30分間の予習。	
	11	脳血管障害、脳梗塞、脳出血				Classiによる30分間の予習。	
	12	脱髄・変性疾患、脳腫瘍、頭部外傷、脊椎・脊髄疾患				授業の復習を30分実施。	
	13	感染症、末梢神経障害、				授業の復習を30分実施。	
	14	筋疾患・神経筋接合部疾患、まとめ				授業の復習を30分実施。	
	15	まとめ				授業の復習を30分実施。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)発表以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○			○		70%
	小テスト	○			○		10%
	発表	○	○		○		10%
	クラッシー・レポート				○		10%
履修上の注意							

科目名	生涯発達心理学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30 時間		担当者	福島 志津
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科(昼夜間) 1年						
授業概要	出生後から幼児期までの発達の様子と理論を理解する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				発達の基本概念が説明できる	
	○	○				青年期までの発達の基本概念と主要理論を説明できる	
	○	○				青年期以降の認知・心理の特徴と主要理論を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:岡本祐子/深瀬裕子 編著 「エピソードでつかむ生涯発達心理学」ミネルヴァ書房 2013年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	発達の概念とは				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	2	発達の規定要因				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	3	発達理論(ポルトマン、フロイト、エリクソン)				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	4	発達理論(ピアジェ)				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	5	乳児の知覚・認知の発達				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	6	乳児の運動発達				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	7	乳児の愛着の発達				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト	
	8	幼児・児童期の遊びと認知機能の発達				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	9	幼児・児童期の自己、他社認知の発達と仲間関係				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	10	保育・学校教育と発達				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	11	青年期の親子関係・友人関係				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	12	青年期の自我同一性				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	13	成人期の職業生活、家族生活				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	14	老年期の知的機能と死への対応				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	15	定期試験				講座全体を振り返り、試験対策を行う(60分)	
評価方法	(1)小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				30%
履修上の注意	授業前に教科書の支持されたところを事前に読んでおくこと。						

科目名	言語学						
科目名(英)	elementary Linguistics						
単位数			時間数	30時間		担当者	高井岩性
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年生						
授業概要	言語聴覚士として臨床の現場で活躍する際に、最低限必要な言語学的な知識の習得を目指す。具体的には、音声・形態・統語の3分野に関する基礎的な知識を身に付けてもらいたい。今後、構音障害や言語発達上の要支援者の症例に関する研究を理解するときの基になる考えに慣れてほしい。また、随時、各項目の国試対策の折り込んでいく。						
授業形式	講義：		演習：		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					音素、異音、超分節音を理解し、音韻的な規則を基にして音韻現象を分析できる。	
	○					自由・拘束形態素の概念を基にして、個々の語の生成の仕組みが理解できる。	
	○					項と付加詞、意味役割、格などの概念を理解し、個々の述語の項構造を構築できる。	
	○					階層構造、文生成の仕組みを理解し、文産出及び文理解のモデルを構築できる。	
	○					言語的意味と発話の意図を区別することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書は使用せず。プリントを配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	調音の仕組みとIPA					IPA表を見直しておくこと
	2	音声と音素の違い、日本語の音素、異音の2つのタイプ					授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと
	3	超分節音(音節の構造、モーラの構造)					授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと
	4	超分節音(アクセントの規則、イントネーション)					授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと
	5	自由・拘束形態素、語の成り立ち、単純語と合成語					STテキストの形態論の項目を見直しておくこと
	6	屈折・派生接辞、派生語と複合語					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと
	7	活用語の仕組み、活用語の生成					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと
	8	異形態の5つのタイプ					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと
	9	項と付加詞、項構造、意味役割					STテキストの統語論の項目を見直しておくこと
	10	格の働き、格交替					授業時に配布したプリントとSTテキストの統語論の項目を見直しておくこと
	11	文構造の生成					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと
	12	言語獲得、動詞の島仮説、普遍文法モデルと用法基盤モデル					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと
	13	ボイス、アスペクト、テンス、モダリティ					STテキストの統語論の項目を見直しておくこと
	14	言語的意味と使用意味、談話、推論					STテキストの意味論・語用論の項目を見直しておくこと
	15	対人関係構築からみたコミュニケーション					STテキストの意味論・語用論の項目を見直しておくこと
評価方法	定期試験の結果を重視する。ただし、適時小テストを実施し、その結果も加味する。定期試験は40問のマークシート形式であり、出題形式や内容は国試に準じる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	小テスト	○					20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	音声学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	増田 正彦
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	ST学科昼夜間部 1年生						
授業概要	言語聴覚士として臨床の現場で活躍する際に、最低限必要な音声学的な知識の習得を目指す。 日本語の音声および音韻の特性や文字表記の基本概念について学ぶ						
授業形式	講義:		演習:		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					音声の基本概念について説明できる。	
	○					日本語の音声および音韻の特性について説明できる。	
	○					日本語の文字表記の基本概念について説明できる。	
	○					超文節的要素について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	日本語音声学入門(三省堂)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	音声の種類、音声器官				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	2	子音①:分類方法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を21分程度復習する。	
	3	子音②:声門の状態				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を22分程度復習する。	
	4	子音③:調音位置				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を23分程度復習する。	
	5	子音④:調音方法1(障害音)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を24分程度復習する。	
	6	子音⑤:調音方法2(共鳴音)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を25分程度復習する。	
	7	子音⑥:二次的調音				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を26分程度復習する。	
	8	子音⑦:日本語の子音				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を27分程度復習する。	
	9	子音⑧:子音の交替				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を28分程度復習する。	
	10	母音①:母音の分類方法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を29分程度復習する。	
	11	母音②:母音の交替				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習する。	
	12	韻律単位				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を31分程度復習する。	
	13	アクセント①:アクセント核と配置規則				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を32分程度復習する。	
	14	アクセント②:アクセントと品詞・語種・語構成				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を33分程度復習する。	
	15	イントネーション				試験勉強	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(4)発表以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					
	小テスト	○					
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	言語発達学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	福島 志津
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	小児の言語発達について学習し、前言語期から学童期以降までのコミュニケーション行動や言語発達の過程を理解する						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				言語発達の基本手概念について説明できる	
	○	○				言語発達の各期の概要について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚療法シリーズ 2 言語聴覚障害総論Ⅱ（建帛社）言語聴覚士のための言語発達障害学（医歯薬出版）						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	言語発達の基本的概念（言語発達と脳の発達、臨界期）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	2	言語発達の基本的概念（言語獲得と聴覚系・発声発語系の関連）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	3	言語発達の基本的概念（コミュニケーション、語音認知、構音の発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	4	言語発達の基本的概念（語彙、統語、語用、読み書きの発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	5	言語発達の基本的概念（言語獲得理論）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	6	前言語期の発達（音声知覚と音声表出）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	7	前言語期の発達（コミュニケーション能力の発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	8	幼児期前半の言語発達（音声知覚と音声表出）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	9	幼児期前半の言語発達（コミュニケーション能力の発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	10	幼児期後半の言語発達（言語理解の発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	11	幼児期後半の言語発達（言語表出の発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	12	児童期の言語発達（言語理解、言語表出、読み書きの発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	13	青年期以降の言語発達（青年期から老年期までの特徴と問題）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策（30分）	
	14	まとめ①（定期試験対策シートの作成）				クラッシーで振り返り課題を実施 定期試験対策（60分）	
	15	まとめ②（国家試験問題の解説づくり）				国試形式の課題（言語発達学の分野） 定期試験対策（60分）	
評価方法	(1)小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 (3) 自分自身の発達を振り返るレポート課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	◎	◎		○		10%
履修上の注意	生涯発達心理学で学んだ知識を活用しながら理解を深めていく。						

科目名	リハビリテーション概論									
科目名(英)										
単位数	1		時間数		30時間		担当者		永江 信吾	
実施年度	2020年度		実施時期		前期		担当者実務経験		病院にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年									
授業概要	リハビリテーションという言葉は、一般社会でも非常に使われるようになった。単に訓練を行い、機能回復のみを行うのではない。リハビリテーション本来の理念、基本的知識を修得する。									
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				リハビリテーションの理念と概念について説明できる。				
	○	○				国際生活機能分類(ICF)と国際障害分類(ICIDH)の特徴と相違が説明できる。				
	○	○				医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わり方について説明できる。				
	○	○				リハビリテーションの過程と方法について概説できる。				
				○		グループディスカッションや発表を通して、新たな気づきを得ることができる。				
テキスト・教材 参考図書	【教科書】PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 要点整理と用語解説 改定第3版 診断と治療社 標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 (第2版) 医学書院									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	リハビリテーションはどんなイメージ？					各自で新たな気づきを追記しまとめる(30分)			
	2	コミュニケーションの成り立ちを考えよう					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	3	リハビリテーションの理念と概念、歴史を知ろう					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	4	医療・社会福祉の法律について知ろう					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	5	リハビリテーションの領域					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	6	老化と介護予防を知ろう					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	7	廃用症候群って何だろう。					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	8	理学療法の実践(運動療法と物理療法)					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	9	作業療法の実践(機能的OT、装具について知る)					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	10	機能障害と能力障害の評価法を習得しよう					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	11	国際生活機能分類と国際障害分類とは何か？					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	12	言語聴覚療法と国際生活機能分類、言語聴覚療法の過程を知ろう					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	13	地域リハビリテーション					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	14	(再臨)リハビリテーションはどんなイメージ？					教科書や配布資料を読み返す(30分)			
	15	定期試験(筆記)と解説					各自で新たな気づきを追記しまとめる(30分)			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	◎				90%			
	小テスト									
	宿題・レポート				○		10%			
	発表・作品									
履修上の注意										

科目名		言語聴覚臨床の基本					
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	灘吉 享子 小川 春美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年生						
授業概要	言語聴覚障害の特性と種類、言語聴覚士の役割・専門性および言語聴覚療法の基本概念を修得する。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語聴覚障害の定義と特性を説明できる。	
	○	○				言語聴覚障害の種類を言語・コミュニケーション過程から説明できる。	
	○	○				各種言語聴覚障害の原因・疫学・主要症状を概説できる。	
	○	○				言語聴覚士の役割と専門性を説明できる。	
	○	○				言語聴覚療法の基本概念を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	藤田郁代 言語聴覚障害概論 医学書院 2019 GCBⅠ 感謝心と思いやりの教育 学校法人麻生塾、GCBⅡ 志の教育 学校法人麻生塾						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	言語聴覚障害とは				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	2	言語とコミュニケーションとその生物学的過程				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	3	失語症の概論				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	4	言語発達障害の概論				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	5	高次脳機能障害の概論				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	6	音声障害の概論				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	7	発話障害の概論				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	8	吃音・流暢性障害の概論				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	9	摂食嚥下障害の概論				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	10	聴覚障害の概論				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	11	言語聴覚療法の基本理念・言語聴覚療法とICF				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	12	言語聴覚療法の過程・関連職種連携				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	13	言語聴覚士と倫理・リスクマネジメント				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	14	言語聴覚療法の法的基盤と変遷				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	15	定期試験				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	16	グローバル・シティズンを目指す				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける振り返りスピーチに取り組む	
	17	より良い人間関係の構築に向けて				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける振り返りスピーチに取り組む	
	18	マナーの本質				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける振り返りスピーチに取り組む	
	19	グローバル・シティズンとしての日常・目標				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける振り返りスピーチに取り組む	
	20	グローバル・シティズンと志				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける振り返りスピーチに取り組む	
	21	私の志とは				テキストと講義資料にて30分復習。他者の意見も確認しディスカッションできるようにしておく。	
	22	志高く生きる				テキストと講義資料にて復習。次回講義開始どきにおける小テスト勉強に取り組む	
	23	まとめ				講義内容を振り返り資料整理、要点把握を行う。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)レポート課題の提出を求める。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)授業時の質問や取り組み以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	○	○				20%
	宿題・レポート		○		○		5%
	質問・取り組み				○	○	5%
履修上の注意							

科目名	失語・高次脳機能障害の理解総論						
科目名(英)	Comprehension of Aphasia and Higher brain dysfunction General remarks						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	小川 春美
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年生						
授業概要	失語症及び高次脳機能障害関しての基本的知識について学ぶ。 失語症を含めた高次脳機能障害の種類や脳損傷領域との関連についての知識を習得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				失語症および高次脳機能障害の概要について説明できる。	
	○	○				失語症および高次脳機能障害が生じる疾患や要因について理解できる。	
	○	○				失語症および高次脳機能障害と脳損傷領域との関連について理解できる。	
	○	○		○		国家試験の問題に取り組み説明することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	藤田郁代 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 医学書院 2015 小嶋知幸 やさしくわかる言語聴覚障害 ナツメ社 2016						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	高次脳機能障害 基本的概念					テキストの該当項を30分読んでおく。
	2	高次脳機能障害 背景症状 意識障害、注意障害					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。
	3	高次脳機能障害に関する脳					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく
	4	高次脳機能障害の実態					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。
	5	失語症					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく
	6	失読・失書					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。
	7	失認と関連症状 半側空間無視					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 内容の確認を小テストで実施するので、復習しておく
	8	失行、行為・行動の障害					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。
	9	記憶障害					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく
	10	認知症					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。
	11	脳機能の側性化、二重乖離、ネットワーク、局在論、全体論					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく
	12	高次脳機能と画像診断 病巣マッピング					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。
	13	脳梁離断症候群					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。
	14	失語症・高次脳機能障害をきたす疾患、脳損傷領域との関連性					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく
	15	まとめと解説					試験に向け、資料、テキスト、Classi、小テストの内容を確認し、60分復習しておく
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回(中間期)クラッシーを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	小テスト・クラッシー	○			○		30%
履修上の注意							

科目名	知的障害・脳性麻痺・後天性障害の理解										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	30時間		担当者	相浦満津子・浅田里美・吉次春香・若山恵				
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	小児施設にて言語聴覚士として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年生										
授業概要	知的障害・脳性麻痺・後天性障害の基本的概念と知識を習得する 知的障害・脳性麻痺・後天性障害の順に学習し、それぞれの関連を学ぶ										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				知的障害・脳性麻痺・後天性障害の定義を説明できる					
	○	○				知的障害・脳性麻痺・後天性障害の診断基準を説明できる					
	○	○				知的障害・脳性麻痺・後天性障害の症状を複数の観点から説明できる					
	○	○		○		各疾患で言語発達障害が生じる原因と発症メカニズムを推論できる					
	○	○				当事者、家族、関係者の心理を概説できる					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	知的障害の概要(定義と診断基準)					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	2	知的障害の言語発達領域の症状(語彙、文法など)					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	3	知的障害の言語発達領域の症状(コミュニケーション)					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	4	知的障害の言語発達領域の症状(発声発語、読み書き)					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	5	知的障害の言語発達領域の症状(認知領域)					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	6	当事者、家族、関係者の心理					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	7	事例研究					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	8	脳性麻痺の概要(定義と診断基準)					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	9	脳性麻痺の言語発達領域の症状(語彙、文法など)					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	10	脳性麻痺の言語発達領域の症状(コミュニケーション、発声発語)					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	11	脳性麻痺の言語発達領域の症状(摂食機能、認知、読み書き)					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	12	当事者、家族、関係者の心理の理解(事例検討)					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)				
	13	後天性障害の概要(定義と発症する疾患の種類)					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(31分)				
	14	後天性障害の言語発達領域の症状					該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(32分)				
	15	定期試験					講座全体を振り返り試験対策をおこなう(60分)				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)事例検討レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	○				80%				
	宿題・レポート	○	◎				20%				
履修上の注意											

科目名	聴覚障害の理解						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	15時間		担当者	星子 隆裕
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	病院にて言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科(昼夜間) 1年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる人体のしくみ・疾病と治療に関する知識・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				聴覚の機能を説明できる	
	○	○				聴覚障害のもたらす影響について難聴の発症時期との関連から説明できる	
	○	○				コミュニケーションモードについて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:藤田郁代(監)「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版」医学書院、2020						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	聴覚の機能				授業内容をA4用紙一枚にまとめる(30分)	
	2	聴覚障害とは何か				授業内容をA4用紙一枚にまとめる(30分)	
	3	聴覚障害の影響とライフステージ				授業内容をA4用紙一枚にまとめる(30分)	
	4	聴覚障害の歴史				授業内容をA4用紙一枚にまとめる(30分)	
	5	聴覚障害のリハビリテーション				授業内容をA4用紙一枚にまとめる(30分)	
	6	成人聴覚障害のリハビリテーション				授業内容をA4用紙一枚にまとめる(30分)	
	7	小児聴覚障害のリハビリテーション				授業内容をA4用紙一枚にまとめる(30分)	
	8	定期試験および解説				講座全体を振り返る(1時間)	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)授業ごとにまとめレポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)授業時の質問や取り組み以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト						
	宿題・レポート	○			○		20%
	質問・取り組み				○	○	10%
履修上の注意	まとめ課題レポートあり。小テスト評価に含む。						